

SS研 eポートフォリオ研究WG 成果報告

-大学教育改革におけるeポートフォリオの動向-

WGメンバー:

小松川浩(千歳科学技術大学)

hiroshi@photon.chitose.ac.jp

中西通雄, 中野裕司, 斉藤和郎, 隅谷孝洋, 丹羽量久,
佐伯敦, 島田昌紘, 戸田博人, 毛利隆夫

本WGの概要

活動内容

- ・eポートフォリオの事例の取りまとめ
- ・活用ポイント:主体的な学び・学修成果の可視化

活動期間 2013年6月～2015年5月

WGメンバー

担当幹事

中西通雄(大阪工大)

推進委員 取り纏め役

中野裕司(熊本大)

推進委員

小松川浩(千歳科技大),

斉藤和郎(札幌学院大),

隅谷孝洋(広島大),

丹羽量久(長崎大),

佐伯敦(富士通),

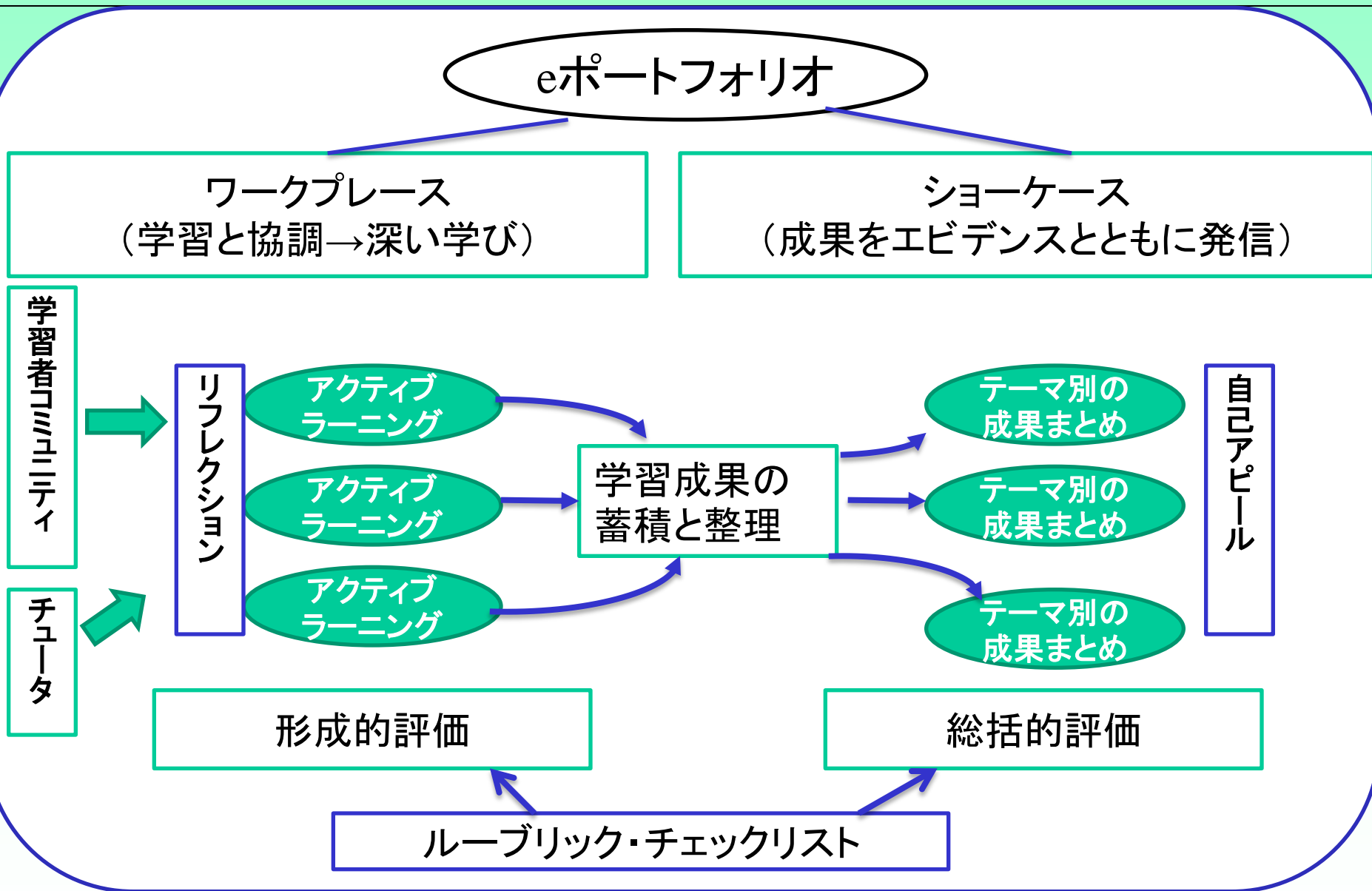
島田昌紘(富士通),

戸田博人(富士通ラーニングメディア), 毛利隆夫(富士通)

活動実績

- 第1回 2013年6月25日(汐留): 現状報告
- 第2回 2013年8月8日(汐留): 事例(創価大学)
- 第3回 2013年10月7日(千歳科技大): 事例(千歳)
- 第4回 2014年1月9日(汐留): データ活用
- 第5回 2014年3月12日(熊本大): 事例(熊本)
- 第6回 2014年6月13日(汐留): オープンソース
- 第7回 2014年8月12日(札幌学院大): データ活用事例
- 第8回 2014年9月29日(広島大): データ分析
- 第9回 2015年1月9日(富士通ラーニングメディア): 構成案
- 第10回 2015年3月27日(長崎大): 最終レビュー

eポートフォリオの定義



eポートフォリオ(概念)

毎回のアクティブ・ラーニング＋リフレクション →
学修成果の蓄積の「場」: ワークスペース

学修成果を自らアピール→
エビデンスとして能力を示す「場」: ショーケース

「期間」: 授業内、授業全体、学科全体・・・ で良い

「対象者」: 学習者、教員、研究者・・・ で良い

「内容」: 教職、学修、キャリア・・・ で良い

eポートフォリオ→システム

eポートフォリオ(概念)を実現するシステム

→ : eポートフォリオシステム

※ オープンソース:

Mahara: ショーケース: 蓄積したコンテンツをWebページ

Sakai(Open Source Portfolio; OSP): マトリクス

→ 構造的に学修成果・リフレクション管理: ルーブリック

Karuta: (Interoperabilityを意識: LTI)

eポートフォリオが見直されてきた話題・・・

(平成26年12月22日 答申)

新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について



生きる力(学力の3要素の**実質化**)
(社会の視点に近い学力観)

→ 従来の入試制度との決別
(すなわち、従来の評価内容の見直し)

教育改革に密接なICT

高校

従来の(基礎)学力(知識・技能)
→ センター入試の廃止:
→ 高等学校基礎学力テスト(CBT)

主体的な学び・問題解決力
→ 実践: アクティブ・ラーニング
→ 評価: パフォーマンス
(ルーブリック・ポートフォリオ)

タブレット・
電子黒板等

大学

授業外(主体的)
反転学習
(知識の定着)

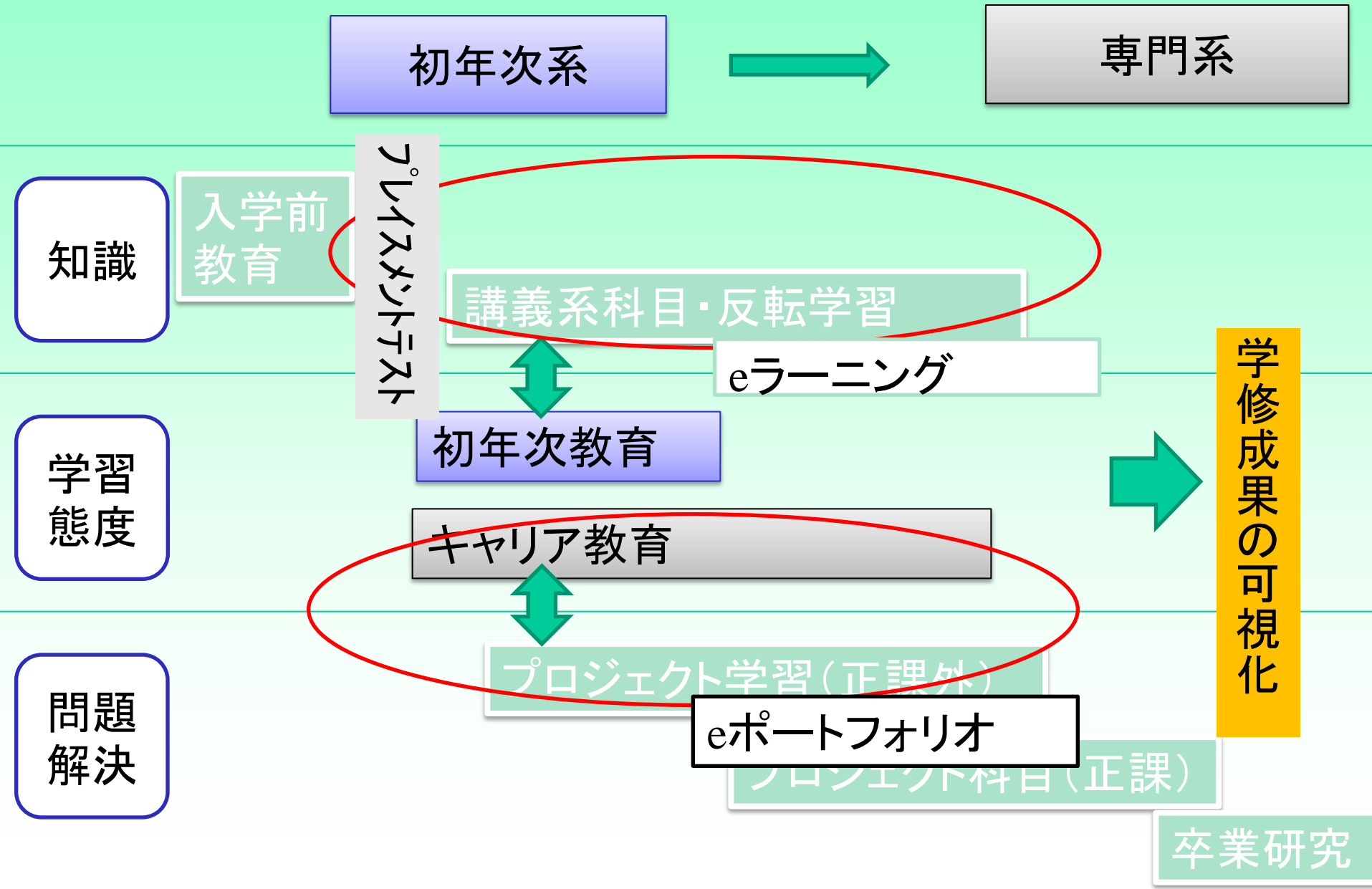
eラーニング



授業内
アクティブ・ラーニング
(知識の活用・創発)
→ 学生活動の評価

eポートフォリオ

教育改革に呼応した学部教育（本WGの結果を踏まえ）

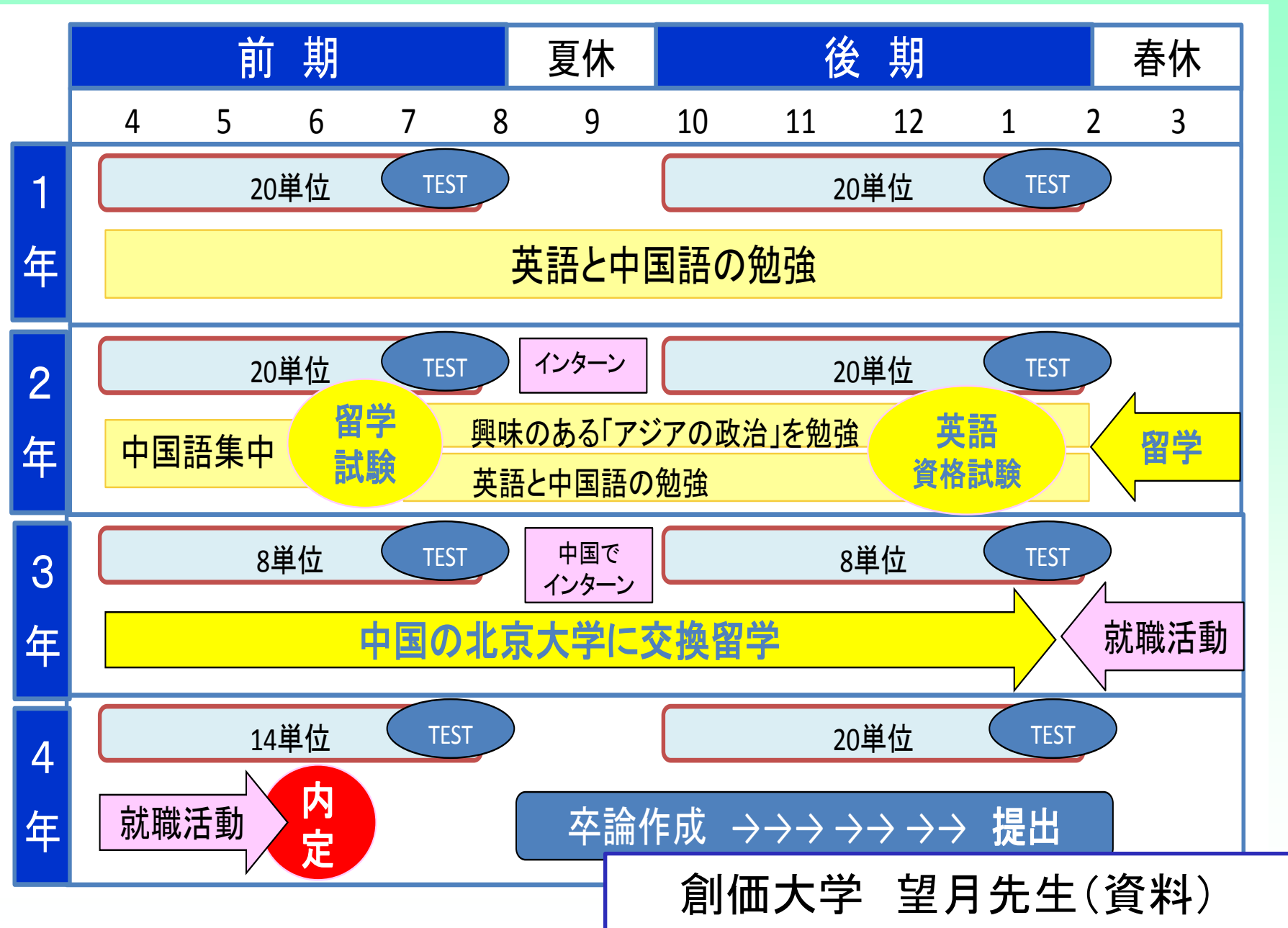


創価大学(事例:学修成果の可視化 AP事業で展開)

ポートフォリオの種類	機能	詳細
学生生活ポートフォリオ	目標設定	セメスターの目標設定
		1週間生活リズムの計画
		4年間計画表
	達成状況と振り返り	1週間の活動記録
		1ヶ月の活動記録
		セメスターの振り返り
キャリアポートフォリオ	キャリアのための基本情報	サポート登録カード
	進路計画表	内的・外的キャリアシート
		進路プランニングシート
	就職活動記録	エントリーシート
		OB・OG訪問履歴
学習ポートフォリオ	科目毎のポートフォリオ	<div>創価大学 望月先生(資料)</div>
	語学ポートフォリオ	
教職ポートフォリオ	教職履修カルテ	

セメスター		ポートフォリオの活用の状況の例	電子化
1年	前期	基礎演習(目標設定とタイムマネジメント) セメスター単位で学習に関する目標設定、振り返り(経済、法、文、経営学部で活用)	○
		共通科目: キャリアデザインと職業(内的外的キャリアシートの作成) 「内的キャリア・外的キャリア」という視点から、進路の選択肢を広げる	○
		共通科目: ワールドビジネスフォーラム(キャリアポートフォリオ) 世界を舞台に働くためのキャリアプランのモデルを提供する授業	○
	後期	共通科目: キャリアデザイン基礎(4年間計画表、内的外的キャリアシートの作成) 働くことと学ぶことの関連性を考えて大学生活の計画をたてる。	○
		経営学部専門科目: グループ演習A(PBL科目、学習ポートフォリオの導入) グループ単位で自らの学びについてPDCAサイクルをまわす	×
2年	前期	教職課程履修者の学習ポートフォリオの作成(約400名) 履修した科目の目標設定と振り返りを行う	○
		経営学部専門科目: グループ演習B(PBL科目、学習ポートフォリオの導入) グループ単位で自らの学びについてPDCAサイクルをまわす	×
		共通科目: キャリアデザインと職業(内的外的キャリアシートの作成) 「内的キャリア・外的キャリア」という視点から、進路の選択肢を広げる	○
		共通科目: ワールドビジネスフォーラム(キャリアポートフォリオ) 世界を舞台に働くためのキャリアプランのモデルを提供する授業	○

学生の計画例（4年間の学習計画）



千歳科学技術大学(事例:学力観を意識した取組)

コース管理システム

【キャリア教育】

【授業】

第1回

目標設定A

自己評価A1

目標設定B

自己評価B1

第2回

ふりかえりA1

PBL

第3回

ふりかえりA2

他者評価

⋮

⋮

⋮

第15回

自己評価A2

自己評価B2

eラーニング

プレースメントテスト1

主体的な学習1

主体的な学習2

⋮

プレースメントテスト2

eポートフォリオ

目標設定A・B

自己評価A1・B1

プレースメントテスト1

ふりかえりA1

ふりかえりB1

ふりかえりA2

学習1 履歴

⋮

学習2 履歴

自己評価A2・B2

プレースメントテスト2

他者評価A・B

学習や活動の履歴を反映・時系列的に可視化

プレイメントテストの実施:

結果: 個票として教員が返却・ポートフォリオにも保持

大学名:

学部:

学科:

学籍番号:

氏名:

<あなたの科目別基礎力>

	日本語		英語		数学<文系>		数学共通		情報	
	点数	合計	点数	合計	点数	合計	点数	合計	点数	合計
得点	57	100	18	60	3	22	0	11	58	100
学内平均	59.0		28.0		7.0		2.0		55.0	
学内順位	67	1	105	1	98	1	38	1	53	1

日本語

	点数	合計
漢字	18	25
語彙	28	50
文法・敬語	6	10
短文読解	5	15

あなたの漢字力は、大学での学習を始めるのに必要なレベルには達していないので、少し基礎的な学習が必要です。また、語彙力、文法力、短文の読解力に関しては、基礎からの学習が必要です。

英語

	点数	合計
単語	6	20
イディオム	3	15
文法	6	20
内容理解	3	5

全体的に英語が苦手ではありませんが、少しずつでも日々英語に接することが、上達の近道です。

数学

	点数	合計
高校1年学習分野	3	22
高校2年学習分野		
高校3年学習分野		

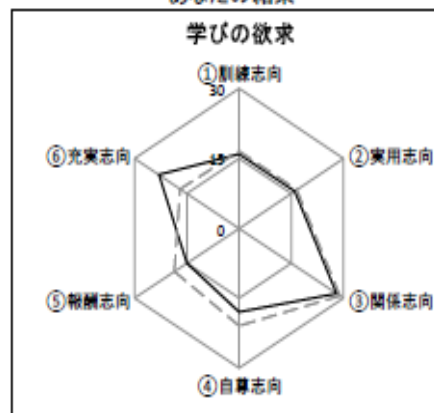
高校1年の数学について基礎的な学習が必要です。

下記の項目の問題が不正解です。

正負の数、比例と反比例、平面図形、三角形と四角形(二等辺三角形、直角三角形)、三角形と四角形(平行線と面積)、平方根、関数、三平方の定理、整式の処理、連立方程式の計算、順列と組み合わせ、三角関数の計算、三角関数の関係、正弦定理、余弦定理、関数のグラフ、放物線の平行移動、2次関数の最大最小、2次関数の頂点

<あなたが見た自分の学び>

あなたの結果



----- 大学平均

- ① 頭や知力を鍛えようとの思いから学ぼうとしている
- ② 生活や将来の仕事に活かそうとの思いから学ぼうとしている
- ③ 学びにおいて、友達、先生、親などの周りの人との関係を来にしている
- ④ 自分のプライドや他者と競う思いから学ぼうとしている
- ⑤ 将来の生活を豊かにする/将来経済的によい生活をするために学ぼうとしている
- ⑥ 勉強することやわかることの楽しさから学ぼうとしている

学修観

基礎学力

学修観(学ぶ姿勢・態度に関する調査)

【学習動機】(市川伸一教授による)

学習動機とは、何故勉強するのかという内的・外的要因の特性を表し、以下の6つの項目から構成されている。

訓練志向	頭や知力を鍛えようとの思いから学ぼうとしている
実用志向	生活や将来の仕事に活かそうとの思いから学ぼうとしている
関係志向	学びにおいて、友達、先生、親などの周りの人との関係を来にしている
自尊志向	自分のプライドや他者と競う思いから学ぼうとしている
報酬志向	将来の生活/経済的によい生活をするために学ぼうとしている
充実志向	勉強することやわかることの楽しさから学ぼうとしている

81の質問紙を通じて調査

84.なぜ、そうなるのかはあまり考えず、暗記してしまうことが多い。

2.自分の感情をコントロールできる方だ

5.動揺しても、自分を落ち着かせることができる

- ・市川伸一 編：“認知カウンセリングから見た学習方法の相談と指導”，プレーン出版 (1998)
- ・小塩真司, 中谷素之, 金子一史, 長峰伸治：“ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性—精神的回復力尺度の作成—”, カウンセリング研究, Vol.35, No.1, pp.57-65 (2002)



標準数学>大学初級>微分法>1. 初等関数の極限

標準数学 > 大学初級 > 微分法 > 初等関数の極限

1	2	3	4
?	?	?	?

$$\lim_{x \rightarrow 1} \frac{x^3 - 1}{x^2 - 1} = \frac{\boxed{}}{\boxed{}}$$

標準数学 > 大学初級 > 微分法 > 初等関数の極限

1	2	3	4
?	?	?	?

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \frac{5x - 1}{3x^2 + 1} = \boxed{}$$

標準数学 > 大学初級 > 微分法 > 初等関数の極限

1	2	3	4
?	?	?	?

次の関数の微分 $df(t)$ を求めなさい。

(1) $f(t) = 3t + 2$

$df(t) = \boxed{} dt$

標準数学 > 大学初級 > 微分法 > 初等関数の極限

1	2	3	4
?	?	?	?

次の関数の微分 $df(t)$ を求めなさい。

(2) $f(t) = t^2$

$df(t) = \boxed{} dt$



標準数学>大学初級>微分法>2. 導関数(基本)

標準数学 > 大学初級 > 微分法 > 導関数(基本)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

$y = (2x + 5)^3$ のとき

$y' = \boxed{} (2x + 5)^{\boxed{}}$

標準数学 > 大学初級 > 微分法 > 導関数(基本)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

$y = \frac{1}{2x + 1}$ のとき

$y' = \frac{\boxed{}}{(2x + 1)^{\boxed{}}}$

PBL等の活動の蓄積・コンピテンシー

自己評価

学習や活動の履歴

キャリア形成プログラム（3年秋・Bグループ） 2011/11/22

表示・非表示

キャリア形成プログラム（3年秋・Bグループ） 2011/12/20

表示・非表示

授業内容	就職活動を控えた冬休みの過ごし方について 就職活動を有利に進めるためにはどういった冬休みの過ごし方が有効なのかを理解する。
あなたの振り返り	この一年を振り返って出来たことに、「自分のしたいことを見つけれられた」ということが挙げられる。 現在でも「職種」を「メーカー系SI」というのを決めて活動しているが、これからの就職活動で「自分のしたいこと」をベースにして決めていきたい。 まだできていない反省点として「SPI対策」、「企業研究」、「自己診断」がある。 こういったことも活動に平行して行なっていきたい。

人間力の自己評価 2011/12/20

表示・非表示

2011年度 SPI模擬試験1 2011/12/21

得点	10点
----	-----

キャリア形成プログラム（3年・秋）個人コース学習用個人コース 2011/12/21～2012/01/31

表示・非表示

演習	達成度
虫食い算	55

能力		自己評価	
日本語能力	文章読解力	3	
	文章作成力		
外国語能力		2	
基礎的科学知識		2	
一般教養・社会情勢に関する知識		3	
メディアリテラシー	情報受信力	2	
	情報発信力		
主体性		3	★
自己管理	健康管理	4	★
	忍耐・実行力		
	規律性・倫理観		
対人関係の構築	傾聴力	3	★
	礼節		
想像力		2	
状況把握力		2	
課題発見力		3	★
創造力		2	★
計画力		2	
調整力	説得力	3	
	柔軟性		
	バランス感覚		
チームワーク		3	★

日付	活動名	コメント
2011/12/12	インターンシップ先の企業の担当者様からの評価	

他者評価

札幌学院大学(事例 学生カルテ)

(2004年から実施: 学生指導シート(はぐくみ))

- ・行動特性診断や意識調査の結の蓄積
キャリア支援サービス会社が提供するコンピテンシー診断
- ・授業への出席状況
- ・学生指導の内容の記録(コミュニケーション記録)
担任制での活用
記録の継承: 指導の継続性を担保する。



学生の振り返りシートの蓄積: 教員の指導
(ポートフォリオ的活用)

札幌学院大学(個別指導)



コミュニケーション記録

学籍番号	参照	氏名		所属	札幌学院大学商学部第一部商学科(共通) (共通) 通常
登録日	2005/08/02 13:01:06	更新日	2005/08/02 14:10:43	相手	本人
記録者	職員 (教務課学部担当(商学部))			公開区分	共有する
共有先	教務課窓口担当者(★選択不可)、教務課学部担当者(商学部第一部)				
内容	<p><相談内容/その時点での状況> 先生より、インターンシップについて情報不足があると本人が不安がっていた。他大学名の氏と電話であったので、状況を聞いたところ、他大学名の学生には、1は本人からインターンシップ先に連絡してご挨拶したいと指導していると聞いた。</p> <p><対応・指導内容> 職員からケータイに電話。</p> <p><結果・経過/今後の対応> 8/2 13:20 再度ケータイに電話。先生に不安が伝わったのは、授業ではじめに指導の意図がわからず退事に苦慮したかということ。特にインターンシップに情報不足は感じていた。1週間前までは自分で一度お邪魔したい旨伝える予定。関係書類一式を教務課とも確認した。</p>				

学籍番号	参照	氏名		所属	札幌学院大学商学部第一部商学科(共通) (共通) 通常
登録日	2005/12/13 10:19:39	更新日	2005/12/13 10:32:30	相手	本人
記録者	職員 (教務課学部担当(商学部))			公開区分	共有する
共有先	指導教員、教務課学部担当者(商学部第一部)				
内容	<p><相談内容/その時点での状況> 父親からしっかりする。からどのようにしたら良いか。また、この2年間ほとんど授業に出ず、何をしていたのか聞いたところ、アルバイトに明け暮れ、楽に充てていたといっている(詳細は不明)。これからの予定は、これからしっかり大学に来て、のうちにアルバイトをやっておきたい。親からは、コンピューター(と言われている)など、考えていない印象を強く受けた。</p> <p><対応・指導内容> 職員からは、今必要な授業に出ること、勉強する習慣をつけることが大事で、アルバイトなどもってのほかだと。無理かもしれないが、何単位かでも取れば、2007年4月の3年次進級が可能であると促し、授業に出て、勉強の仕方非難してあげる。メモし、帰っていった。</p> <p><結果・経過/今後の対応> 指導教員の先生を指導すること、指導員にも1度職員宛ね、その報告をする。</p>				

札幌学院大学
斉藤様(資料)

札幌学院大学の事例(ポートフォリオ的活用)

- 入学前学習の成果を共有
 - 学習達成度、学習態度、学習特性を把握できる
- 年度初めのガイダンス
 - 新入生ガイダンス(大学生活を始めるにあたって)
 - 2年生の年度初めのガイダンス(1年間の振り返り)
- 新入生調査
 - 入学後、半年を経過した時点での意識調査
- 「ライティングスキル」育成の試み
 - 基礎教育(教養教育)の学習成果を教員間で共有
 - 専門教育との連携・・・スキルの修得を促す

長崎大学(授業での活用)

情報基礎(1年 教養 必修 1600名)

※ 情報センター 6名の教員で担当

- 予習(授業内容), 自学自習(演習)

- 授業中: 予習での自分の理解不足を前日までに報告

→ 授業: 主に共同学習(相互に理解不足の点を相互に説明)

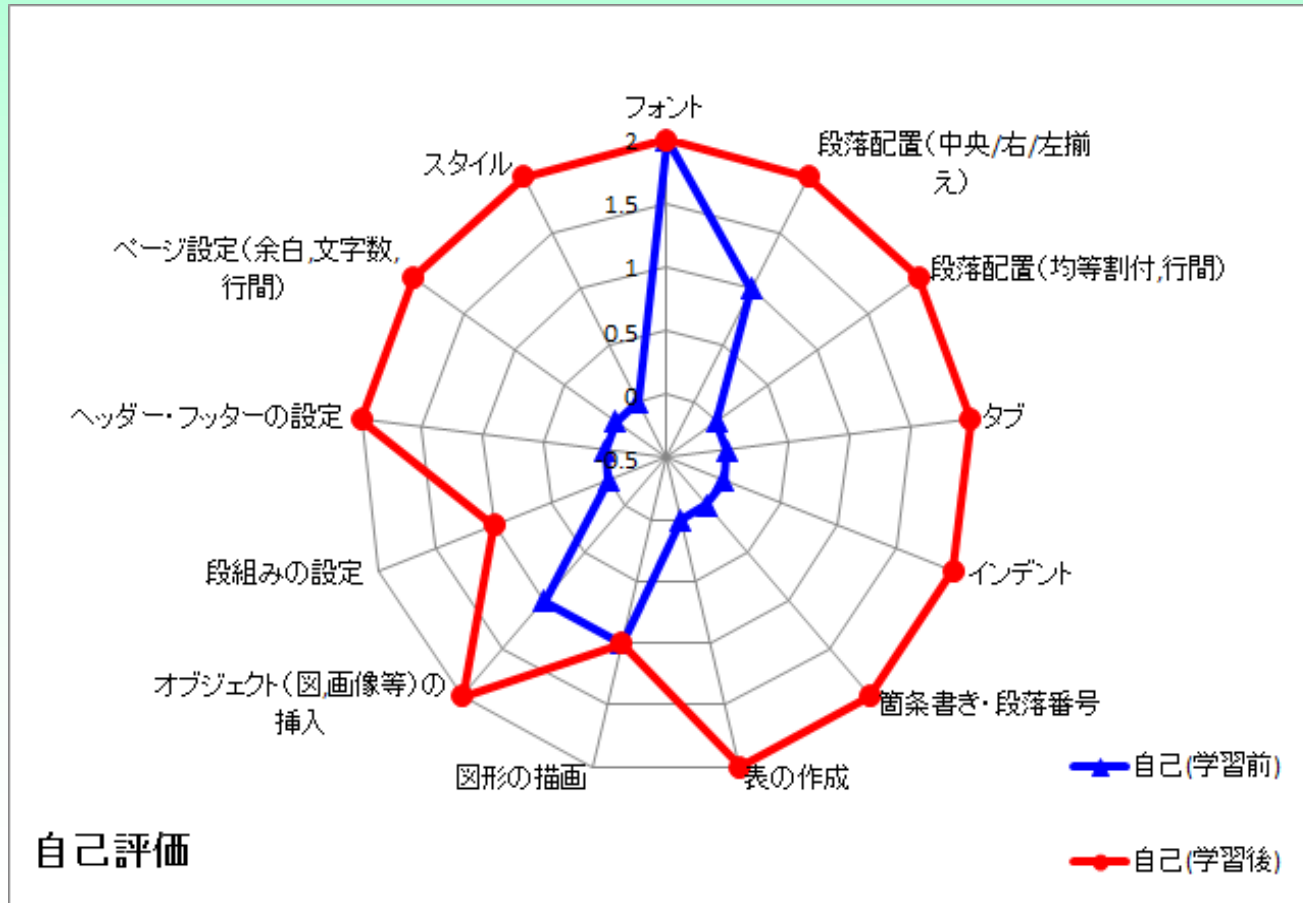
- 授業前後での振り返りシート(形成的評価)

→ 教員側では、授業改善に活用

長崎大学の事例(自己の習熟度の向上:可視化)

学習前・学習後アンケート

自身の申告値の変化から、学習成果を認識させる
改めて、「使える」レベルに達していない学習項目を視覚的に認識させる

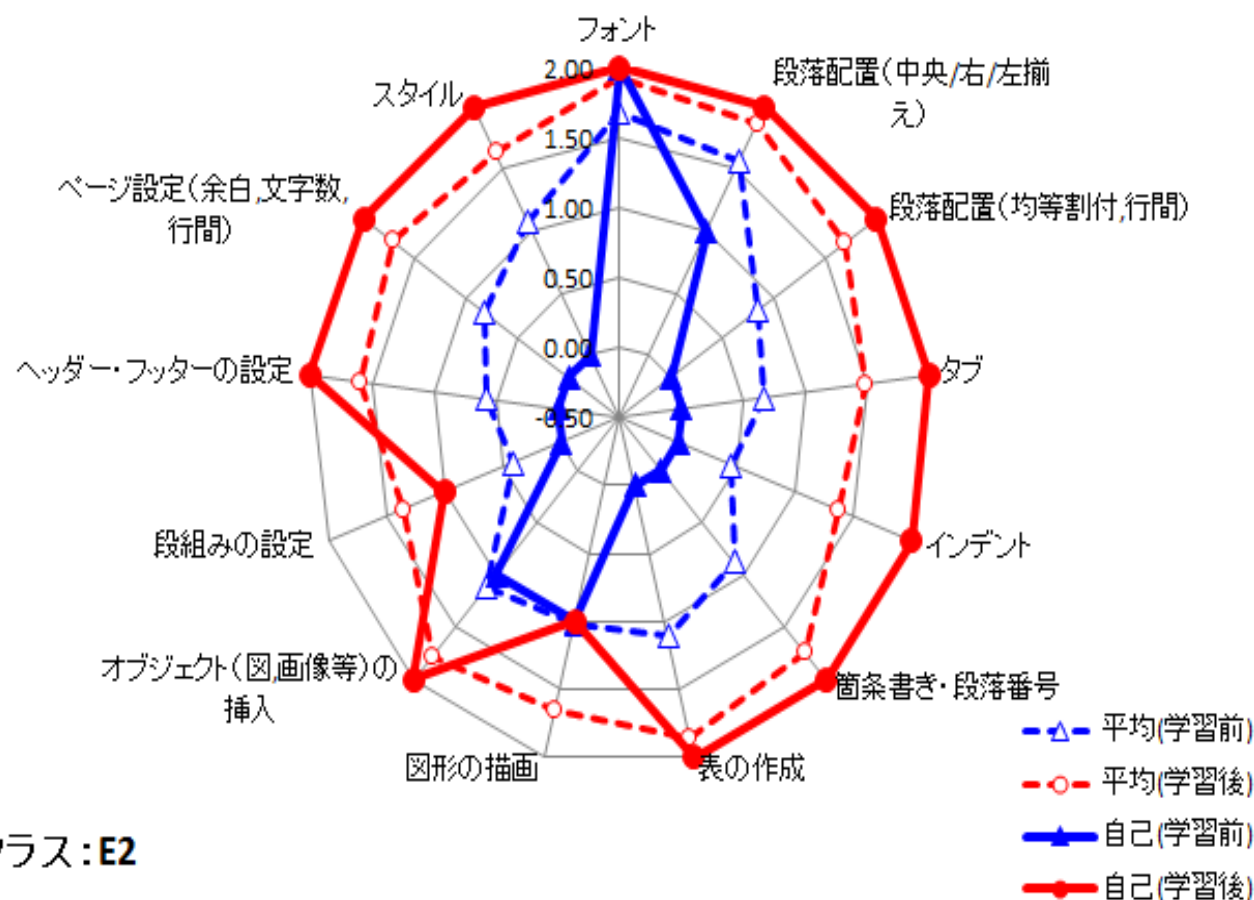


長崎大学
丹羽先生(資料)

長崎大学の事例(他者との比較:可視化)

学習前・学習後アンケート

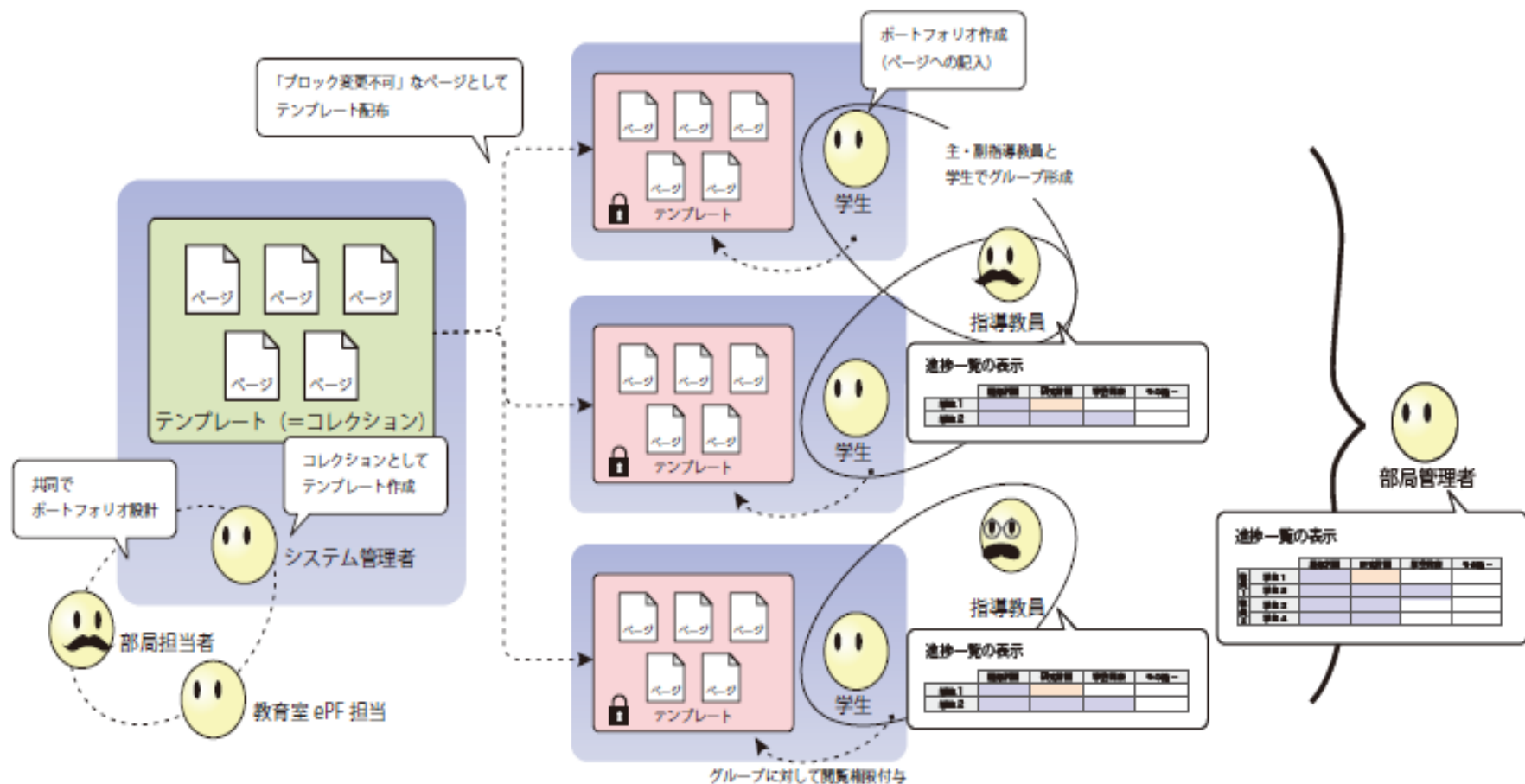
クラスにおける自身の状況を明確に認識させる。



長崎大学
丹羽先生(資料)

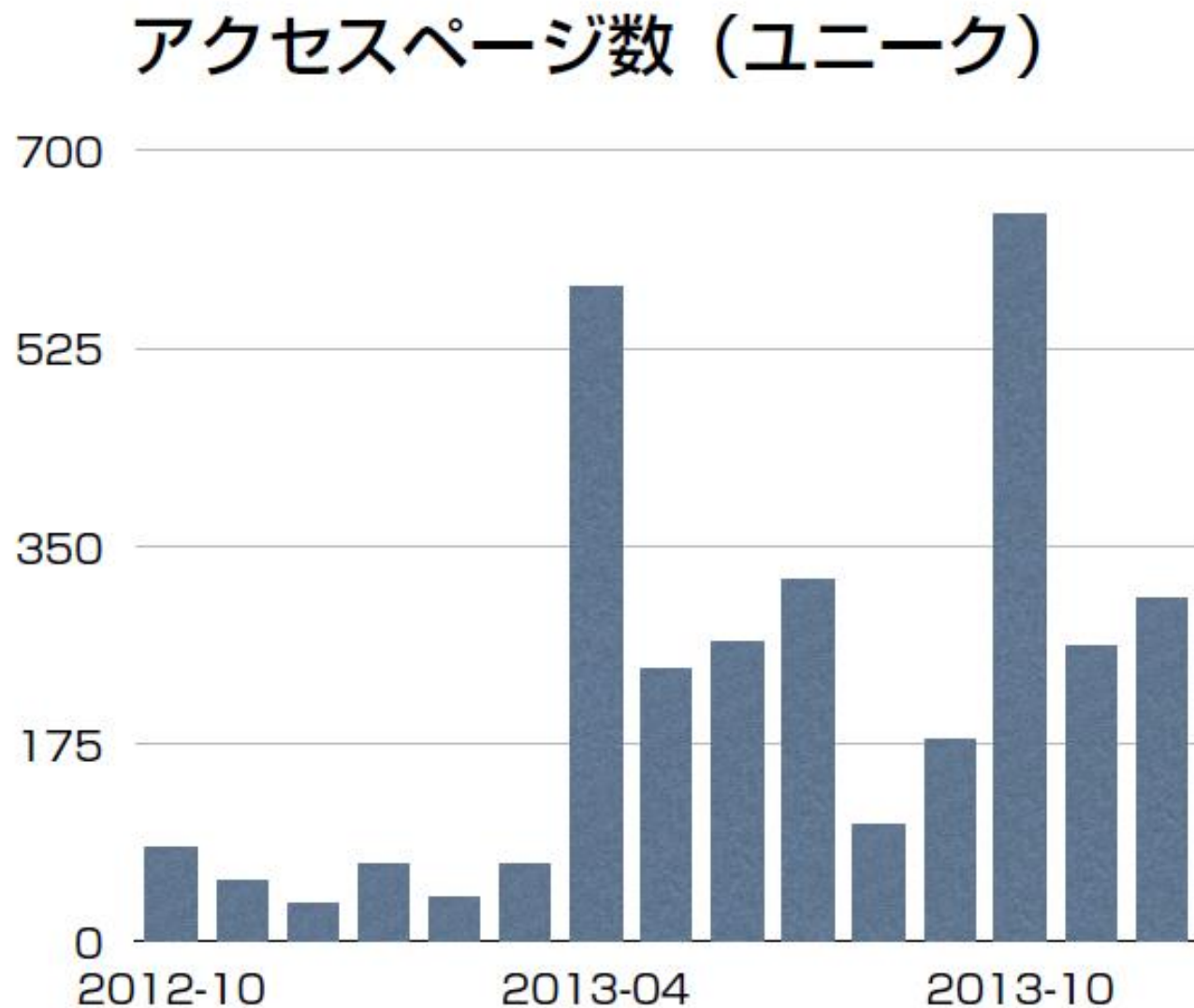
広島大学(事例 ショーケース)

Maharaのカスタマイズ(研究室:大学院でも活用)



広島大学
隅谷先生(資料)

広島大学のポートフォリオ活用状況



広島大学
隅谷先生(資料)

熊本大学(事例 ワークスペース&ショーケース)

GSIS Learning Portfolio : eポートフォリオ : Home - Mozilla Firefox

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(I) ヘルプ(H)

< > kumamoto-u.ac.jp https://pf.gsis.kumamoto-u.ac.jp/f ... Google

Learning Portfolio

Kumamoto University

教授システム学専攻
学習サポートフォリオ

マトリックス

- プロフィール
 - Options

プロフィール	自己紹介	リフレクションペーパー	ゴールステートメント	その他
コンテンツ				

コンピテンシー

LMSからSakai OSPにフォーラム課題の自動転送・蓄積

館本大学大学院 社会文化科学研究科 教授システム学専攻
Graduate school of Instructional Systems

ポートフォリオ

学士前期課程最終試験

本専攻での学習と成果の証明 コアコンピテンシー オブジェクションコンピテンシー

ショーケース

コアコンピテンシー自己評価

プロフィール

最終試験 (自己評価)

【コア】1. 教育・研修の現状を分析し、教授システム学の基礎的知見に照らし合わせて課題を抽出できる。

自己評価 - 達成度 ★★★★★

エビデンスベース
各コンピテンシー
に紐付く提出物

ショーケース(最終試験に活用)

熊本大学
中野先生(資料)

前提

- 修了者のコンピテンシー(outcomes)定義
- 全科目のブロック単位でコンピテンシーと紐付け
- 全ての学習成果物・履歴がLMSに保存
- 殆どの課題はフォーラムに提出→科目内レフレクション

熊本大学(事例 学生状況の把握)



熊本大学
中野先生(資料)

熊本大学(事例 授業との連携)

熊本大学シラバスシステム (モックアップ: 担当教員モード)

EnglishJapanese

科目名 : 情報基礎A 9(日) / Basic Course of Information Technologies A (英)

最終更新日時:未だ実装できていません, 更新者:未だ実装できていません

作成完了

← 以下の入力全てが完了すると、このボタンが有効になります。

他科目からコピー

基本情報

科目ナンバー	未だ実装できていません	開講年次	1年生
年度・学期	2014年・前期	曜日・時限	水・1限
担当教員	中野 裕司, 武蔵 泰雄, 久保田 真一郎	単位数	1.0単位
選択/必修	未だ実装できていません	授業回数	未だ実装できていません
時間割所属	教養教育(一般教育)(58)	時間割コード	01432

7つの学修成果とその割合

1.豊かな教養 ①	20%
2.確かな専門性 ①	30%
3.創造的な知性 ①	10%
4.社会的な実践力 ①	10%
5.グローバルな視野 ①	5%
6.情報通信技術の活用力 ①	0%
7.汎用的な知力 ①	25%
残り ①	0%

教育プログラムの到達目標と学修成果との関係

詳細情報

使用言語 ①

日本語による講義 + 英語のテキスト

授業の形態 ①

講義

授業の方法 ①

2文字 保存

授業の目的 ①

対面授業に演習やグループ学習を取り入れる。

授業の概要 ①

21文字 保存

到達目標 ①

連続体の力学を理解するための最低限の基礎知識を習得するとともに、その知識を専門分野への適用能力を育成し、レポートなどの課題を行うことで継続的な学習能力を高める。

評価方法・基準 ①

80文字 保存

到達目標 ①

1. 応力とひずみの概念が理解できるようになる。
2. 応力-ひずみ関係式が理解できるようになる。
3. エネルギー原理が理解できるようになる。

評価方法・基準 ①

61文字 保存

到達目標 ①

以下項目について評価し、60点以上を合格とする。なお、それぞれの評価項目についても60%以上の水準をクリアすること。ただし、出席は2/3以上、レポート課題はすべて提出することが必須の条件です。

評価方法・基準 ①

1. レポート課題 20%
2. 前半の授業内容に関する演習35%
3. 全体の授業内容に関する演習45%

到達目標 ①

140文字 保存

到達目標 ①

1年前期に開講される「工学の基礎力学」、「工学の基礎実験」を基礎とする。

熊本大学
中野先生(資料)

eポートフォリオにおけるデータ活用

eポートフォリオ:

○振り返りシート→ 学修態度・キャリア観

○ルーブリック・チェックリスト→ 能力・問題解決力

+

eラーニング:

○学内LMS→ 学修習慣・学習量(知識量)

+

学内ポータル・教務システム:

○授業の出席状況・成績(GPA) → 単位取得・退学特性



Learning Analytics , Institutional Research

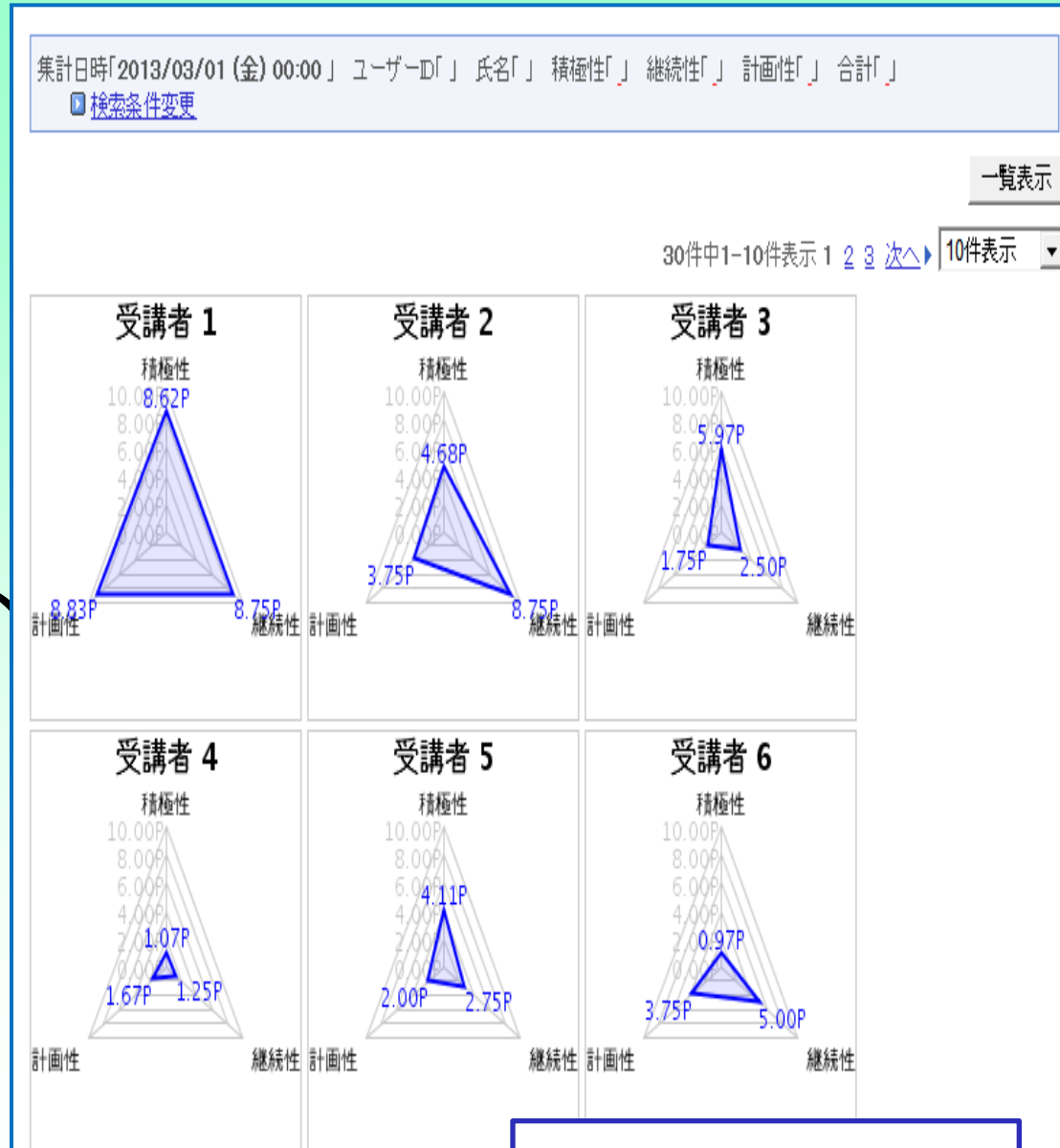
● 富士通の取組(ビッグデータの扱い)

横浜国立大学との共同プロジェクト:

○ 他大学含む3412講義を対象

○ 教材参照、課題提出、ディスカッション発言、アンケート回答、授業出席に基づく行動特性の分析

○ 積極性・継続性・計画性の3指標で分類

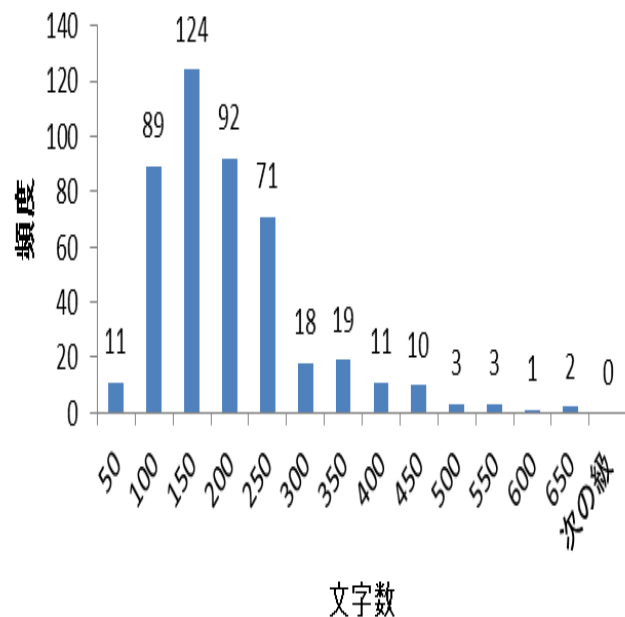


富士通(資料)

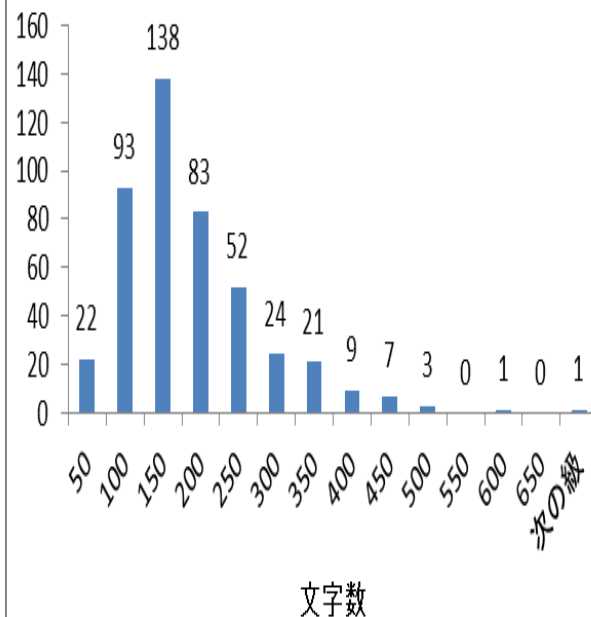
学生の振り返りシートの解析(長崎大学)

情報基礎(1年 教養 必修 1600名)の振り返りシートの解析

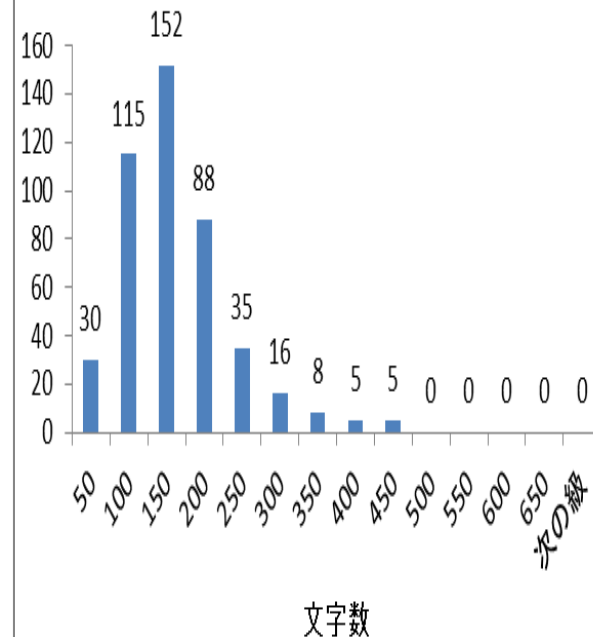
1. クラスの状況と自分を比較



2. 自身の習熟度の向上



4. さらに向上するため



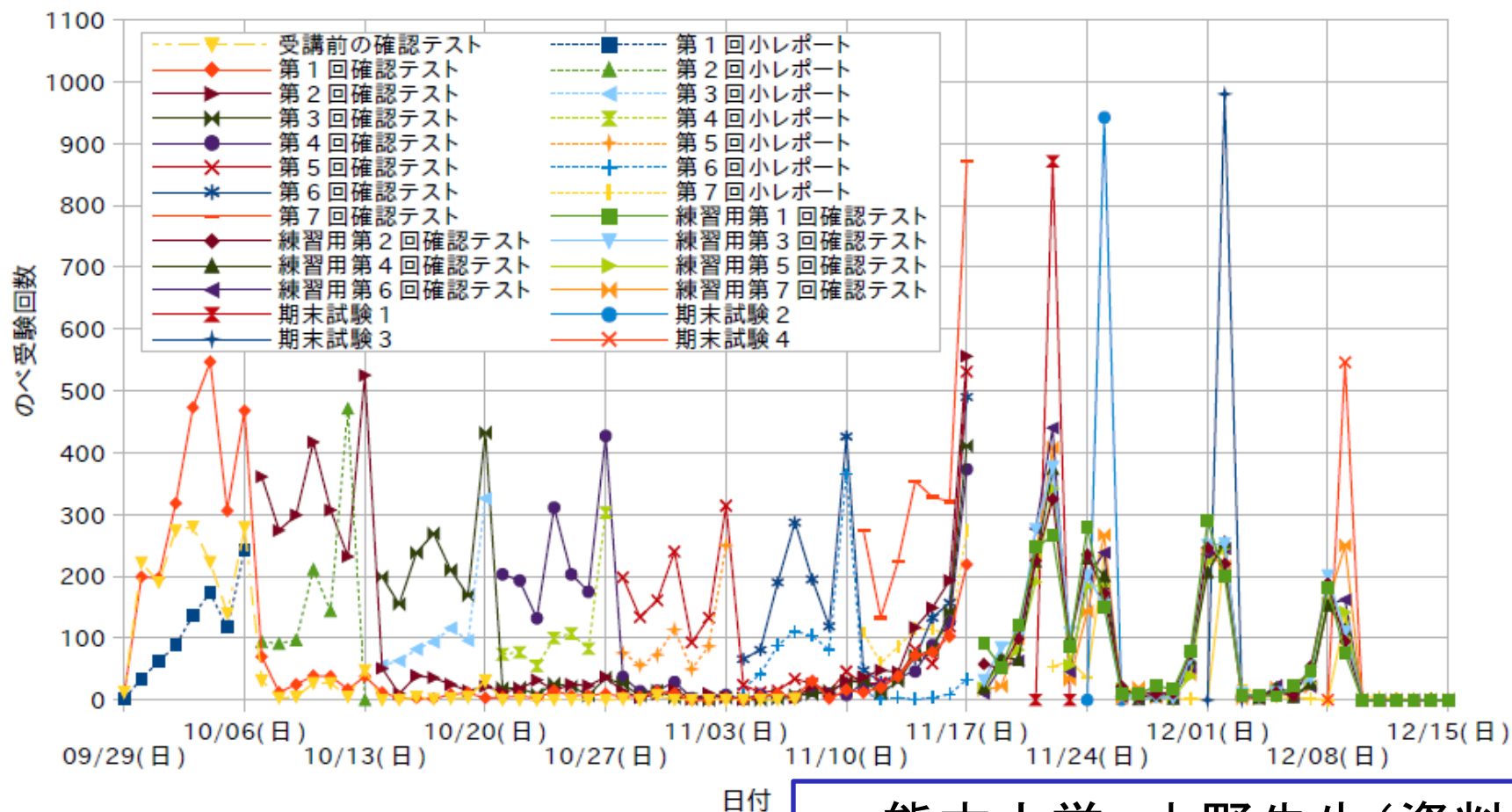
長崎大学 丹羽先生(資料)

文字数が100文字を下回ると、質の低下傾向がみられる。
→ 最低限の文字数設定が有効

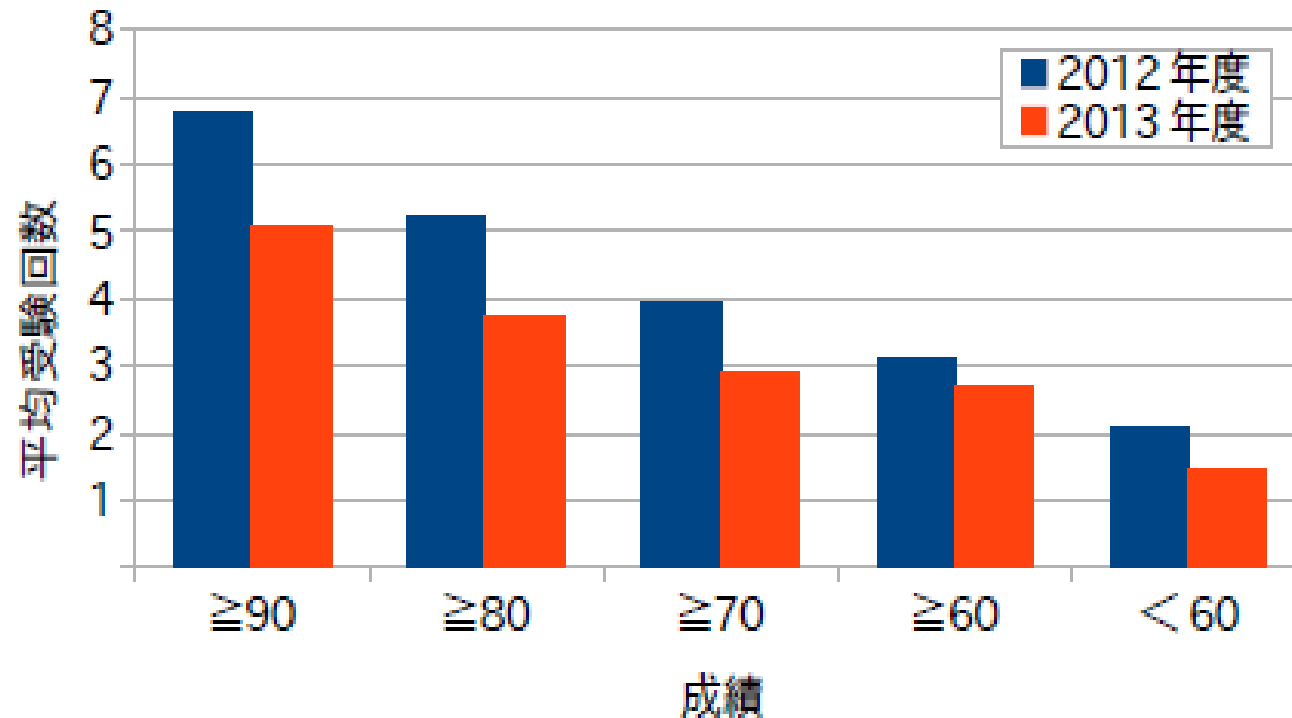
熊本大学のLMSの解析

2年次(情報処理概論 1000名): 毎回確認テストを実施: 何度も受講可

小レポート(出席)、確認テスト、練習用テスト、期末テストののべ受験者数の変化 (2013 年度)



熊本大学のLMSの解析



確認テストを反復的に解いている学生は、成績が良い傾向。→ IRT等の適応型テストの有用性

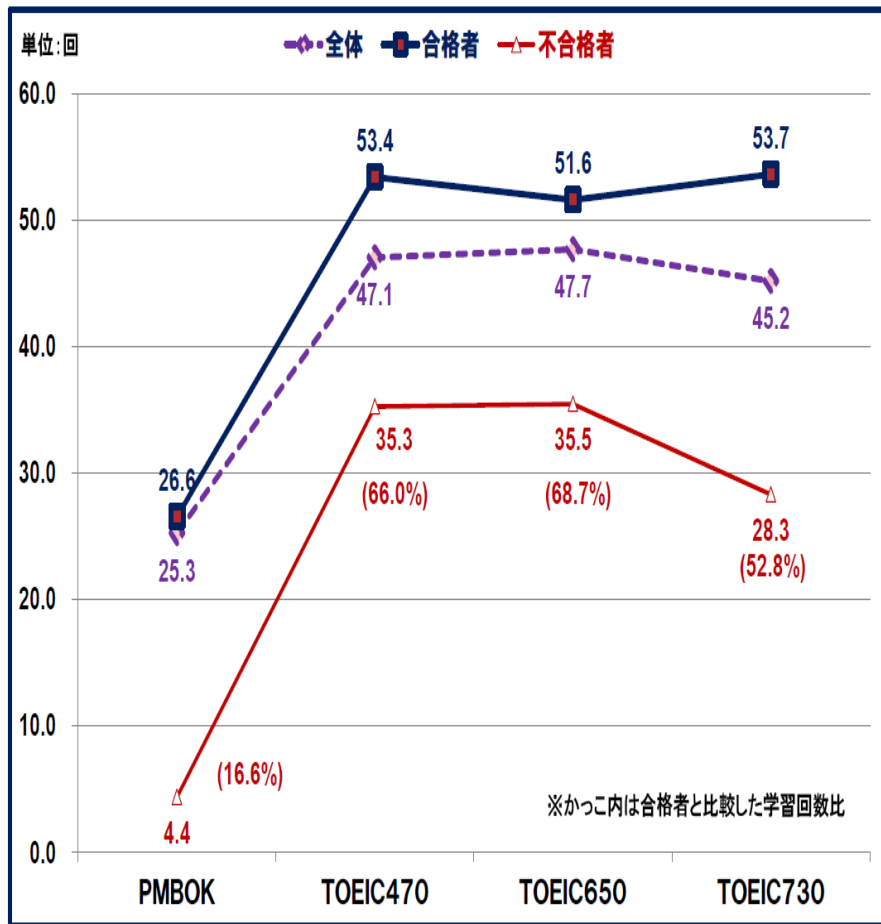
オンラインテキストを活用した大規模情報処理科目の実践 (JSET全国大会)

A Large-scale information literacy class using an on-line textbook

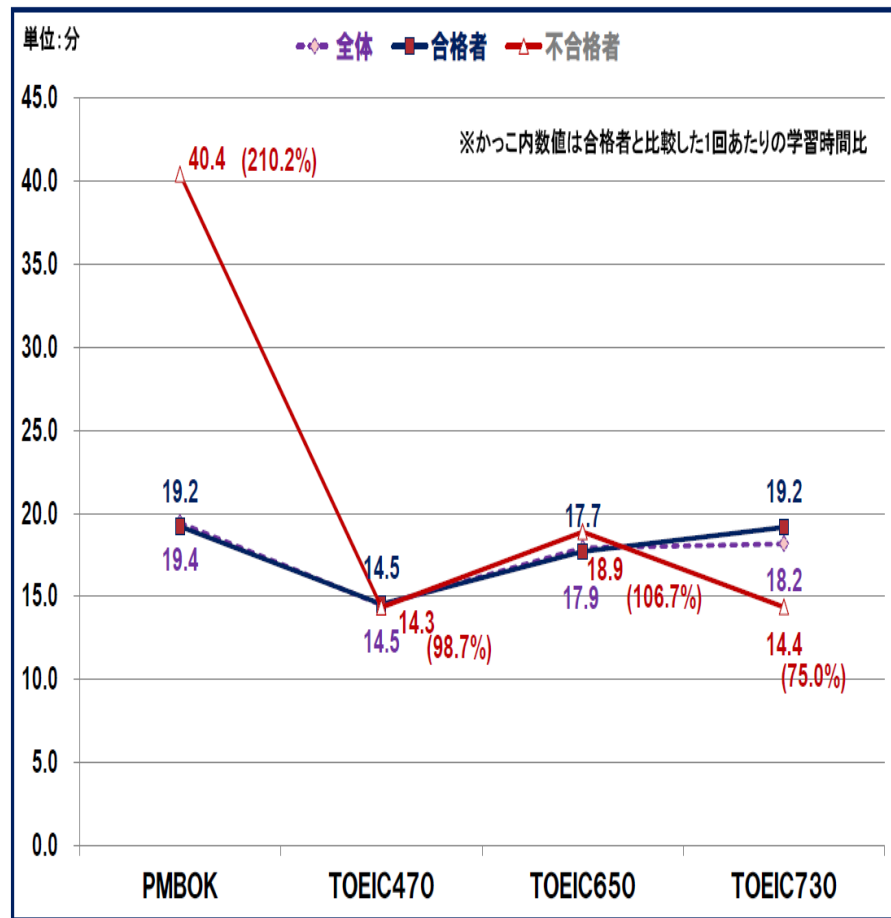
中野裕司*, 久保田真一郎**, 松葉龍一*, 戸田真志*, 永井孝幸*, 右田雅裕*, 武藏泰雄*, 喜多敏博*, 杉谷賢一*

社会人教育(eラーニング)の動向

2012年10月1日～2013年9月30日



2012年10月1日～2013年9月30日

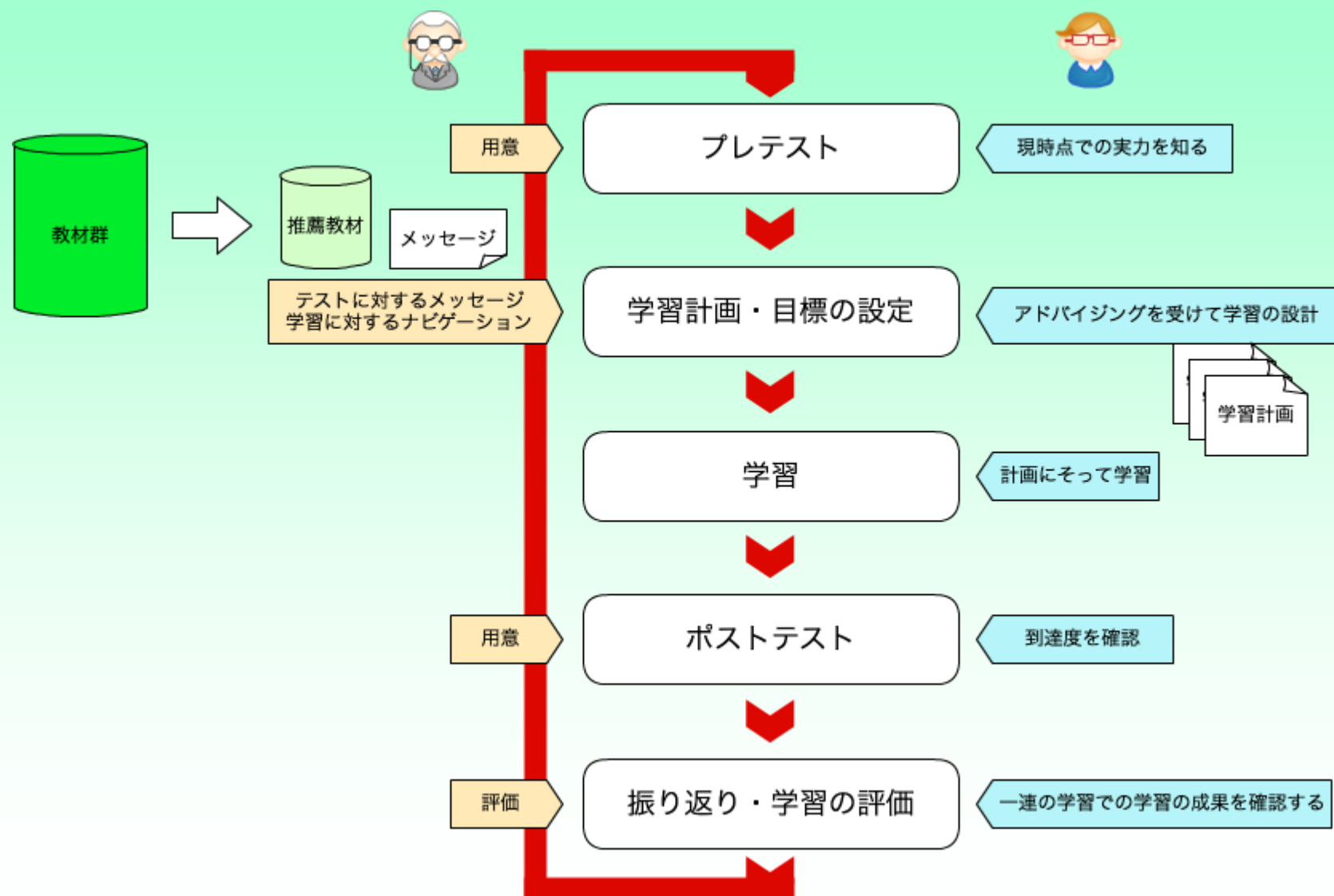


理解度は、学習回数に顕著に依存

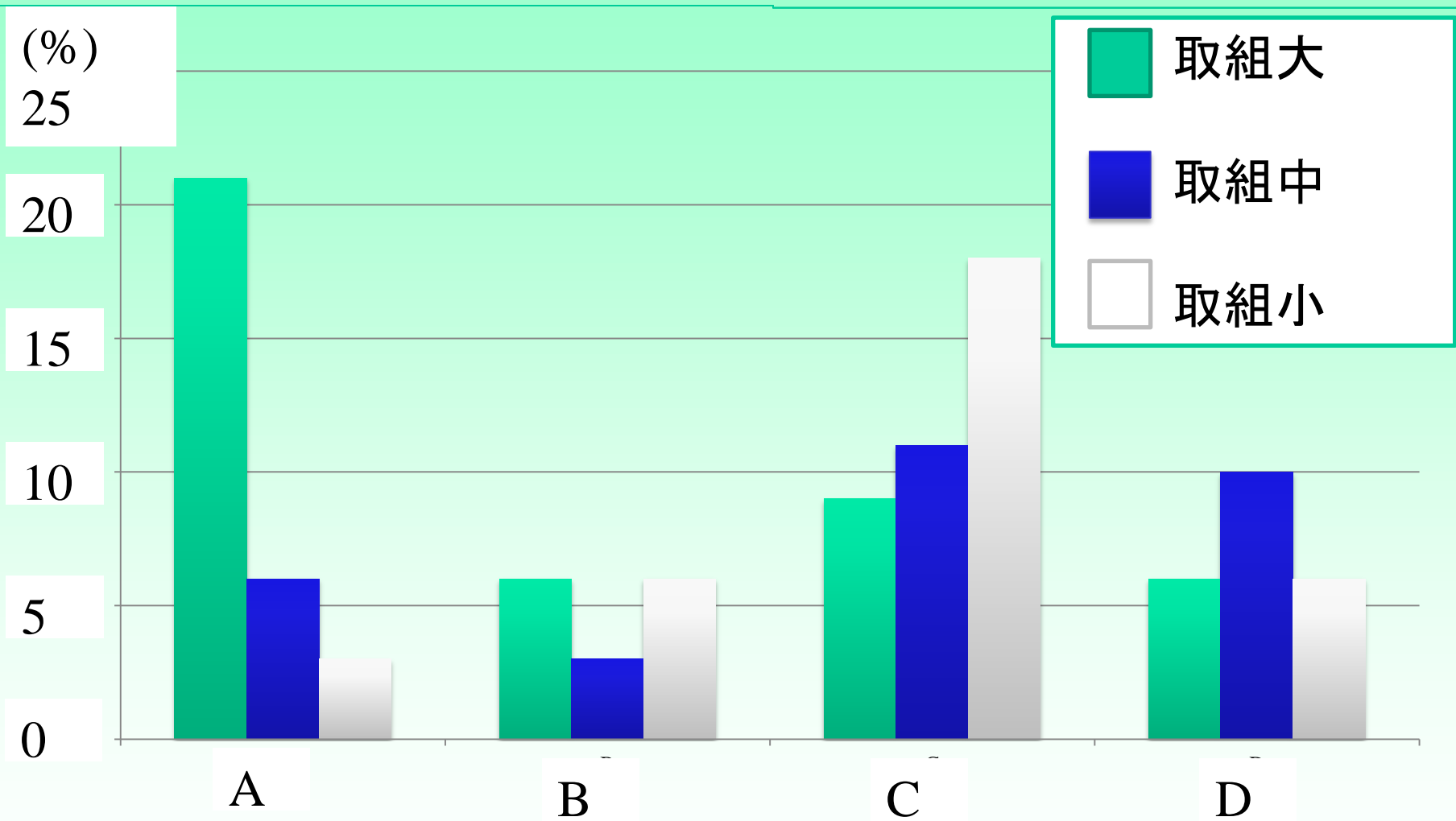
富士通ラーニング
メディア(資料)

→ 入学前教育でのeラーニング活用: 複数大学でも報告

千歳科学技術大学(基礎学力+学修態度)の解析



eポートフォリオでの計画の立て方によるeラーニングの取組差



A: 理由付けと取組内容を書いている, B: 理由付けのみ書いている
C: 取組内容のみ書いている, D: どちらも書いていない

PBL(アクティブ・ラーニング)参加学生の状況(特徴点抽出)

	2年生全体	英語プロジェクト
人数	159	16
計画人数	130	14
計画率	82%	88%
平均学習時間	2:40:25	3:38:43
平均進捗率	75%	78%
学習日数の平均	8.07	7.76

学修観と基礎学力(入学段階プレイスメント)の相関は？

	日本語	英語	数学	情報	4科目合計
感情調整	-.096	.020	.033	-.083	-.028
① 失敗に対する柔軟性	-.131	-.016	.033	.040	-.005
思考過程の重視	.063	.180*	.291**	.131	.260**
方略志向	.032	.099	.026	.210**	.122
充実志向	-.034	.225**	.236**	.052	.195*
訓練志向	-.025	.140	.156*	.050	.132
② 実用志向	-.127	-.077	.023	-.067	-.064
関係志向	-.152	-.022	-.031	-.193*	-.124
自尊志向	-.084	.074	.087	-.002	.045
報酬志向	-.120	-.079	-.066	-.087	-.114
意味理解志向	.12	.153*	.195*	.184*	.235**
③ 新奇性追求	.020	.052	.037	.070	.063
肯定的な未来志向	-.142	.138	.062	-.013	.034
因子1	-.001	.128	.174*	.141	.174*
④ 因子2	-.089	.142	.148	.024	.104
因子3	-.145	-.007	-.001	-.114	-.076

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 166$

注：①市川らの学習観 ②市川らの学習動機

③小塩らの精神的回復力 ④本研究で加えた3因子

学習者特性と基礎学力の相関は？

大学間共通で、学力と学習者特性の明確な相関は見られなかった。



(仮説1) 特性測定の精度が悪い
→ 別の量(学習頻度と基礎学力の相関は高い)

(仮説2) 必ずしも学習態度と基礎学力は相関が無い
(だからこそ学力の3要素が必要)



個々の学生に、**学びの特性**を意識させる(メタ認知)ことは
大事:その上で大学教育としての知識定着・活用を促すこと
が重要:ということで、**ポートフォリオの活用は重要**

まとめ

- 1, eポートフォリオの定義及びシステムの確認
→ワークスペースとショーケースでの概念の重要性
- 2, 教育改革とeポートフォリオの関係整理
→知識・能力・問題解決と評価の観点で、ICTは重要
- 3, 1,及び2,に基づく事例調査:ICTの特性確認
→創価,千歳, 広島, 長崎 等
- 4, ICT活用でのデータ解析調査(事例を中心に)
→ 個々の有用性は示せるが、データの共有は難しい:
→ 知見の共有は可能: